



平成 28 年 12 月 16 日
海 上 保 安 庁

海上保安庁職員が国際航路標識協会（IALA） e-Navigation 委員会議長に就任しました

～アジアから初の就任～

12月13日（火曜日）、フランス（パリ）で開催された第63回国際航路標識協会（IALA）理事会において、同協会常設技術委員会の一つである e-Navigation 委員会の議長として、海上保安庁交通部企画課国際・技術開発室の野口課長補佐の就任が決定されました。

IALA の常設技術委員会における議長就任はアジアから初となります。

1. IALA は、昭和 32 年に設立された世界の航行援助事業の国際的な改善及び協調を目的とする非政府機関（本部：フランス（パリ））であり、海上保安庁は国家会員として昭和 34 年から参画しています。
2. IALA の e-Navigation 委員会は、国際海事機関（IMO）が進める既存及び新規の電子航行支援設備等を総合的に活用した次世代の航行支援システム（e-Navigation）について、航路標識当局の立場からの検討、IMO への提案等を行うために設置されている技術委員会で、海上交通の安全に直結する GPS の脆弱性対策や AIS^{*1}、VDES^{*2}の技術基準に関する国際的な勧告等の作成を行っています。
3. 海上保安庁は、今年 2 月に「VDES 開発のための IALA ワークショップ」を東京において開催する等、e-Navigation の実現に向けて主導的な役割を果たしています。
4. 野口課長補佐の議長就任は、航行援助分野における国際活動に対する海上保安庁の取組み及び同氏の同委員会副議長としての実績が評価されたものであり、海上保安庁として他の IALA 加盟国と協調して、引き続き IALA の活動に積極的に貢献して参ります。

※1 AIS（Automatic Identification System：船舶自動識別装置）は、船舶の識別符号、種類、位置、進路、速力、航行状態及びその他安全に関する情報を自動的に VHF 帯電波で送受信し、船舶局相互間及び船舶局と陸上の航行援助施設等との間で情報の交換を行うシステムです。

※2 VDES (VHF Data Exchange System: VHF データ通信システム) は、AIS の機能に加え AIS より高速大容量の VHF データ通信機能を有する新たな海上のデジタルデータ通信システムです。

(参考1)

国際航路標識協会 (IALA: International Association of Marine Aids to Navigation and Lighthouses Authorities) は、国際海事機関 (IMO)、国際電気通信連合 (ITU) 及び国際水路機関 (IHO) 等と密接な関係を保ちつつ、航行援助事業にかかる諸問題の検討、航行援助事業の標準化のための勧告・ガイドライン等の制定及び加盟国・地域の航行援助事業の発展等に努めている。

平成 28 年 11 月現在、IALA は、85 の国・地域の航行援助業務担当機関 (国家会員 83 機関)、研究団体 (準会員 58 団体)、製造メーカ (工業会員 130 団体) 等、271 の団体が会員として加盟し、理事会、各技術委員会 (e-Navigation/船舶通航業務【VTS】/航路標識性能・管理【ARM】/航路標識技術・維持【ENG】各委員会) 及び事務局で構成されている。

IALA 理事会は、実質的な IALA の意思決定機関であり、選挙により選ばれた 21 名の選出理事と非選出理事 3 名 (総会主催国、次期総会主催国及びフランス) が務める。当庁は昭和 34 年に国家会員として加盟するとともに昭和 50 年からは現在まで 10 期連続で同協会の理事を務めている。

(参考2)



野口 英毅 (のぐち ひでき) 略歴: 昭和 55 年海上保安庁入庁。平成 6 年に短期在外研究員として米国沿岸警備隊本庁に派遣されたほか、平成 17 年から 19 年まで JICA 長期専門家としてフィリピン共和国に派遣され海上保安人材育成プロジェクトに従事。平成 25 年 12 月より IALA e-Navigation 委員会副議長に就任。昭和 35 年神奈川県生まれ。